

中空知衛生施設組合リサイクリーンについて

滝川市では近隣の2市2町と協同で廃棄物の広域処理を実施しており、各自治体で分別収集された一般廃棄物は中空知衛生施設組合リサイクリーンに搬入され、環境負荷の低減や資源の有効利用に配慮された処理が行われています。なかでも、生ごみのリサイクル処理は全国に先駆けた取り組みとして注目を集めています。

リサイクリーの生ごみ処理の特徴は…

- ◇3市2町（総面積1,797平方km、総人口約9万人、総世帯数約4万2千世帯）の域内から排出される年間約8,000トンの一般廃棄物の生ごみ（家庭系及び事業系）をリサイクル処理しています。
- ◇家庭から排出される生ごみも対象としたバイオガス化プラントとしては国内で最大規模の処理能力（55t/日）を有しています。
- ◇集められた生ごみは、袋などの異物を機械で除去した後、発酵処理しメタンガス（エネルギー）を取り出します。
- ◇メタンガスは燃料として主に発電に用いられ、施設全体で消費する電力の約7割を賄っています。また同時に熱も回収され、発酵槽の加温などに使われています。
- ◇処理後に発生する約300トンの発酵残さはさらに熟成させ、肥料として地域の農家や公共施設などを中心に土壌還元されています。

この処理により、これまでの焼却・埋立といった生ごみ処理にかかる環境負荷の大幅な軽減が図られるとともに、生ごみ（バイオマス）をエネルギーとして有効に活用することで、化石燃料の利用抑制や地球温暖化防止にも寄与しています。

図 生ごみの分別収集→バイオガス化処理のフロー

